

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小野小学校

【結果について】

《概要》

本校の平均正答率は、国語は67%、算数は74%という結果でした。平均正答率は、国語では全国平均とほぼ同じ結果となり、算数では全国平均を11.5ポイント上回りました。国語では、学習指導要領の内容別に見ると、「知識・技能」の観点では全国平均を上回ったものの、「思考・判断・表現」で弱さが見られ、特に「読むこと」について6.8ポイント下回りました。短答式で解答する問いについては17ポイント上回っていることから、基礎的な学力は定着していることが分かります。しかし、記述式での解答については8.9ポイント下回っており、自分の考えを適切に記述する力に弱さが見られました。算数では、学習指導要領の領域別に見ると、すべての領域で全国平均を上回り、特に「数と計算」「図形」では13ポイント上回りました。「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれの観点においても全国平均を上回り、基礎的な学力だけでなく、活用力についても定着しつつあることが分かりました。質問紙調査では、「人が困っているときは、進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」等の項目で肯定的な回答が全国の回答率を大きく上回りました。一方で、「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていたか」等の項目で肯定的な回答が全国の回答率を下回りました。

《強み・弱み》

今回の調査において、全く解答しなかった児童は0人で、すべての問題を最後まで書こうと努力した児童が93.3%で全国平均を13%上回っていたことから、本校の児童は粘り強く課題に取り組める強みをもっていることが分かりました。また、ICTの活用等の項目で、肯定的な回答が全国平均を上回っています。授業ではiPadを活用し、友達と考えを共有したり意見を出し合ったりして学びを進める姿勢が身についてきており、ICTを活用して子どもたちが主体的に学ぶ姿勢がよく見られるようになりました。さらに、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、「書くこと」領域の指導改善に取り組んだことにより、定型文などを活用して自分の考えを記述する課題で正答率が上がりました。しかし、自分の考えを条件に合わせながら記述する力や、他者視点から考えたことを記述する力に弱さが見られました。このことから、引き続き、校内研究を活用しながら全教職員の指導力の向上を目指し、低学年から系統的に積み上げて実践していくことが大切であることがわかりました。各教科の授業の中で、友達の立場から考えを述べたり、条件に合わせて適切に伝えたりする活動を積極的に取り入れながら指導を進めていきたいと思います。

【指導の充実に向けて】

『小野小スタンダード』

課題発見 子どもと一緒に設定した具体的なめあてをもって学習を進めます。

見通し 45分の授業や単元の流れに見通しを持ち、明確なゴールを意識して学習を進めます。

学び合い 言語活動を重視し、子ども同士の意見交流や話し合いを中心に据えて学習を進めます。

板書 45分の授業の流れが視覚的にとらえられる板書によって学習を助けます。

ふり回り 設定しためあてに立ち返って学習をふり返ることにより、成果を確実なものにし、課題を次の学習に生かします。

◇上記の『小野小スタンダード』に沿った授業改善に引き続き取り組み、子どもの学習意欲を高め、子どもが充実感を得られる授業を目指します。

◇全学年で「漢字の広場」の学習を充実させ、漢字学習や文作りなどの言語活動の学習改善を図ります。

◇解き方、考え方などの学習のあしあとがわかるように整理し、自分の考えを説明できる児童を目指し、学習指導を行います。

◇校内研究やOJT研修を活用して、全教職員の指導力向上を目指します。

◇ご家庭の皆様と連携しながら、児童の学力の定着を目指します。